

中長期目標 (学校ビジョン)		多様な背景を持つ生徒に「学ぶ意欲」を育て、「優しさと感謝の心」を育み、「自分も役に立ちたい」と前向きに共生する資質と「社会的な自立を実現する」といった意欲・態度を育む。			今年度の 重点目標	1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 真摯かつ心豊かに他と共生する態度の育成 3 「ふるさと」とつながる心の育成 4 社会的な自立に向けた支援		
年 度 当 初					評 価 結 果 (1)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○「分かる」を大切にしながら主体的に授業に取り組む態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。 ○単位修得率80%以上	○全職員による生徒情報の共有 ○全ての教員によるユニバーサルデザイン研修・合理的配慮の視点を取り入れた授業の展開 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明会を転入職員に行った。 ○支援員、白鳳サポーターを配置し、個別指導を充実させている。 ○前期末での単位修得率は定時制79.9%、通信制83.7%であった。	A	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づき、指導方法の改善を推進する。 ○情報共有を密に行い、個別指導を継続する。	（教務・ 談）育相
	○ICT活用教育の推進	○世の中のICTの普及と利便性より、情報活用能力の育成が必要である。	○各自の課題の解決に向け、主体的にICTの活用ができる。 ○ICT機器に抵抗感のない生徒80%以上	○ICTの活用のための教員研修と環境整備 ○ICTを活用した教材の充実 ○ICTを利用した授業実践 ○NHK高校講座でのICT活用	○chromebookは多くの教員が授業等で活用している。 ○授業資料配布、アンケートなどをGoogle Classroomで行い、活用を推進している。 ○各教室にchromobook接続用ケーブルは配置し、使用環境を整えた。 ○全職員対象にKickstart Program Googleコア研修を行った。 ○Chromebookを授業で使うことに抵抗感のない生徒は定時制87.9%であった。コンピュータやプロジェクトなどのICT機器を活用した授業や、NHK高校講座の視聴などのICT活用に抵抗感のない生徒は、通信制89%であった。	A	○ICT機器の活用推進を継続し、職員のスキルアップを図る。 ○今後も研修会を企画し、指導力向上を図る。 ○ICTを活用しやすい環境整備を継続する。	教務
	○生徒理解と環境整備	○多様な生徒のおかれた状況・背景を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が安心して学校生活を送り、意欲的に学習活動に取り組むことができる。	○個人面談・hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーターとの連携 ○通信制就学支援事業（学校内託児）の推進 ○通級による指導で学んだことを通常の学級で活かす校内支援体制の推進 ○生徒理解のための教員研修の実施と充実	○生徒アンケートによると「米子白鳳高校は自分にとって安心して通える学校だと思う」の「そう思う、だいたいそう思う」の生徒の割合は 定時制課程96%、通信制課程91%だった。 ○中学校からの引継と中学校への引継返し訪問、関係機関との情報共有、合理的配慮申請による支援会議やHyper-QUを実施し、生徒理解を深めた。 ○各課程会議での情報共有やSC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーター・精神科学校医と連携し、情報共有を行った。 ○「通級による指導（学校内託児）」は、今年度は15回実施し、託児児童は延べ15人で好評だった。 ○「通級による指導」を定時制課程4人、通信制課程1人が受講し、生徒の満足度も高かった。 ○教職員研修を通して、「幸せな学校・学級づくり」について学んだ。	A	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校との連携、関係機関との情報共有、合理的配慮申請による支援会議やHyper-QUを活用し、個別支援をさらに充実させる。 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かすために、教職員への周知の在り方を検討する。 ○「通級による指導」に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。 ○教職員研修で学んだ方法を機を捉えて実践する。	教育相談
2 真摯かつ心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的な生活習慣を身につける取組が必要である。 ○無断遅刻、欠席する生徒がいる。	○早寝早起き等の生活のリズム及び適切な食生活を心掛ける。 ○すんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いができる。	○遅刻・欠席の防止指導、家庭連絡の徹底 ○立ち番指導の実施 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康を意識した体調管理指導の推進	○担任が家庭連絡を取り、遅刻や欠席など丁寧な指導を行っている。 ○4月と9月の2回執行部の生徒を中心に立ち番を実施した。保護者や派出所の警察官にも協力していただいた。年々参加者が多くなり、PTA役員や他団体も立ち番に参加していただいた。 ○自転車車の登校時ヘルメット使用について、1年・2年生はほぼ着用できているが、3年生以上の着用率が低い。 ○定時制・通信制とも、未成年の喫煙での指導例が増加している。	B	○遅刻や欠席の多い生徒に対し、担任・教科担当との連携を密にし、生徒の実情に合った指導を実施する。 ○ヘルメット着用について、3年を中心に、保護者懇談会などで、粘り強く声掛けをしていく。 ○保健体育科と連携してのタバコの害についての指導や、駅周辺・学校周辺のパトロールの実施をする。	生徒
	○自己理解・他者理解の促進	○自己と他者の違いや多様性を受容できる人間関係育成のための環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係が醸成され、お互いを尊重し合ってクラスが居心地の良い場となる。 ○学校が楽しいと感じる生徒80%以上	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウンターの実施 ○性に関する指導や人権教育の充実 ○生徒向け教育相談講演会の実施	○生徒アンケートによると「米子白鳳高校に入学してよかったと思っている」の「そう思う、だいたいそう思う」の生徒の割合は 定時制課程98%、通信制課程93%、「高校生活は楽しいと感じている」の「そう思う、だいたいそう思う」の生徒の割合は定時制課程90%、通信制課程86%だった。 ○エンカウンターを実施し、居心地のよいクラス的环境作り、人間関係作りを行った。特に新入生にとっては、生徒同士が関わる良いきっかけとなったようである。 ○中学校時に比べて登校を継続できる生徒が増えた。 ○「性に関する指導」講演会や人権教育公開LHRを実施した。 ○人権教育LHR（講演会含む）を10月、11月に実施した。 ○生徒向け教育相談講演会を10月に実施し、多くの気づきを得て、生徒の自己理解・他者理解が深まった。	A	○生徒間の人間関係力を引き続き育成する。 ○今後もエンカウンターを実施し、安心できる居場所としてのクラス作りを行う。 ○来年度の人権教育LHRに向け、人権教育推進委員会で協議を重ねる。 ○本校の生徒にとって有意義な講演会を企画していく。	教育相談
	○個に応じた指導と集団の活性化	○人との関わりやコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○自分自身を認め、自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができる。 ○生徒会行事に積極的に参加した生徒の割合85%以上（定時） ○積極的に行事に参加し、アンケートにて「参加して良かった」と満足度を示す回答が90%以上（通信）	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○自主性を活かした部活動の運営 ○執行部活動の充実	○情報を共有し、実態把握に努めた。場合によっては、外部機関の協力を得て指導した。 ○軟式野球部は今年も県総体に出場できたが、県内大会予選を突破できなかった。また、バドミントン部・卓球部は全国大会に連続して出場し、特に卓球部は全国大会でもベスト16入りするなど好成績をおさめた。 ○定時制課程では、生徒会活動も生徒が主体的に取り組むようになり、前期は対面式・部活動紹介・スポーツフェスティバル、生徒総会、立ち番指導などを行った。スポーツフェスティバルや学校祭では、事前に全校生徒に対しアンケート調査を実施した。結果として83.8%の生徒が満足という充実した運営をすることができた。 ○風楽祭（通信制学校祭）は参加人数が少なかったが、92.3%の参加生徒は満足した。通信制課程においても、生徒会執行部を中心に、主体的に行事に参加するようになってきている。 ○白楽祭（定時制学校祭）も、コロナ禍以前の状況を取り戻してきた。クラス単位や学年単位の催し物も計画・実施され、ますます内容が充実してきた。	B	○担任団や分掌内での連携はもちろんのこと保護者とも連絡を密にしていく。 ○県生連大会や生活体験発表大会、学校祭（白楽祭・風楽祭）、校外研修（通信制課程）など生徒会執行部員が活発に活動できるように支援する。 ○近年生活体験発表の参加者が少なく（定時制）、早い段階で動機づけをしていく。	生徒
3 「ふるさと」とつながる心の育成	○体験活動をととした社会性の育成と自己有用感の醸成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高める必要がある。	○自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。 ○「自信がついた活動があった」と感じる生徒の割合80%以上	○定通充実事業（チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア）および実習を通した達成感の習得に向けた取組の推進 ○アルバイト、ボランティア活動、地域美化活動の推進	○計画通り実施している。活動を通じて自己の進路等生徒が考える機会となった。 ○学校での授業・活動を通して、入学前より自分自身の行動に対して自信がついたと思う生徒は定時制85.9%、通信制89%であった。	A	○今後も予定通り実施する。	教務
	○地域との交流と協働	○地域との交流をととし、地域社会や周囲の環境の良さを認めるなど関心をさらに高める必要がある。	○地域社会や環境に関心を持ち、異世代とのコミュニケーションができる。 ○園児との交流に積極的に参加した生徒の割合80%以上	○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流 ○コミュニティ・スクールによる意見・提言の活用 ○淀江地区との交流を通したふるさとの特徴理解（銭太鼓・傘踊り体験、和傘作り、ヒガンバナの植栽活動、淀江さんご節保存会）	○計画通り実施している。地域の人々や文化に触れることで、他者との関わり、社会			